昭和56年　第765号
10月25日

市報 にいがた

市の人口
		前月比
人口	454,471	（＋439）
男	222,959	（＋227）
女	231,512	（＋212）
世帯数	144,746	（＋231）

56年9月末日現在

発行日 毎週日曜日
発行所 新潟市役所 新潟市西堀通6番町866 電話 代表(28)1000
編集人 高橋甲子（担当企画部広報課）
印刷所 ㈱第一印刷所

「文芸にいがた」入選作決定

樋口さん（小説）ら5人に文学賞

文芸誌「文芸にいがた」の入選作品がこのほど決定しました。市民の皆さんから寄せられた作品数は五百十点にものぼり、この中から、文芸にいがた文学賞五点、奨励賞九点、佳作二十五点、入選百九十一点、参考作一点が選ばれました。入賞者の方は次のとおりです（敬称略）。

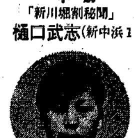
なお、「文芸にいがた」は、これら入選作品を集め、十二月上旬に発刊されます。

各部門の最優秀作である「文芸にいがた文学賞」には、五点が選ばれました。（詩・川柳は該当作品なし）

小説「新川堀割秘聞」樋口武志（新中浜1）

短歌「五頭山縦走」長谷川宏（寺尾西）

俳句「雑詠」星七郎（天野）


児童文学「リムのふしぎな旅」石渡孝子（長潟）

随筆「旅先での思い」塚野恭子（二葉町）

◉小説　応募数18点　▼奨励賞　浅川一男（中山四）「人間東西社」▼佳作　女池理枝（四ツ屋町一）「バラの館」、広沢孝夫（小針）「幸子の日常」▼参考作　斎藤俊一（松浜町）「桐」

◉詩　応募数56点　▼奨励賞　半田信和（白山浦二）「夏のたより」▼佳作　斎藤健一（桃山町二）「軒先から」、山本至（関屋田町二）「八月の影」、長沼裕美子（真砂町）「ハムスターのひげどうしてしんだの」、市川つた（新和）「言葉よ腐葉土になれ」、佐藤良夫（南万代町）「無題」、石山千代子（月見町）「いちじく」、浜田怜子（二葉町三）「足音」、飯田紀子（槇尾）「夏との出合い」

◉短歌　応募数131点　▼佳作　渡辺恭子（小針）「日傘」、西潟静枝（五十嵐一の町）「北海道点描」、青木夏野（浦山三）「歌舞伎舞踊隅田川」、稲垣静子（沼垂一）「夏祭り」、西慶吉（旭町通二）「雑詠」、大塚ヨネ（弁天三）「無題」▼入選　五十七点

◉俳句　応募数152点　▼奨励賞　長谷川義雄（姥ヶ山）「雑詠」、小林イマヨ（西堀通十二）「雑詠」、金子とね（白山浦二）「雑詠」、▼入選　百七点

◉川柳　応募数68点　▼奨励賞　松原実（信濃町）「雑詠」、吉川好子（東湊町二）「雑詠」、小林みい（女池七）「雑詠」、本田悌一（下所島）「雑詠」▼佳作　笠原与三郎（藤見町）「雅詠」、宿屋武夫（酒屋町）「雑詠」、池田忠四郎（五十嵐一の町）「雑詠」▼入選　二十二点

◉児童文学　応募数17点　▼佳作　堀トシ子（二葉町二）「ねこのおうちになったせんたくき」、斎藤俊一（松浜町）「耳の中の小人」、正道かほる（東堀十三）「ともこの夏まつり」、布施照子（坂井）「よろしくぺぺです」

◉随筆　応募数68点　▼佳作　酒井英枝（坂井）「アブラゼミ」、鈴木唯子（中山七）「玉子」▼入選　五点

「文芸にいがた」予約開始

各部門の文芸にいがた文学賞から入選作までを集め、十二月上旬に「文芸にいがた」を発刊します。

明日からこの「文芸にいがた」の予約を開始します。皆さん、どうぞお求めください。

装丁　A5版、二百ページ

価格　千円程度（現品引換え）

申し込み　十一月四日までにはがきに、住所、氏名、電話番号、冊数、受け取り場所（中央公民館か地区公民館）を明記し、中央公民館文芸誌係（〒951 西堀通六）へ

新1年生のための「就学相談会」

視力が低い、耳の聞こえが悪い、手足が不自由である、言葉の出が悪い、知的な遅れがある、自閉的な傾向がある、社会性が劣っている――など、いろいろな心身の障害のため、就学について悩んでいる保護者について個別に相談を受け、助言を与える相談会です。

対象者　心身の障害のため、通常の学級、特殊学級または養護学校のいずれかで教育を受けさせるか、また、就学について悩みか希望を持っている保護者

日時　●東新潟地区…十月二十八日午後一時半～　●西新潟地区…十月三十日午後一時半～

会場　市立総合教育センター

申し込み・問い合わせ　十月二十七日までに電話かはがきで、市学校指導課（☎25－一〇〇〇、上大川前八、開公ビル内）へ

30歳を過ぎたら受けましょう
検診車による子宮頸がん検診

市では今年も比較的医療機関の少ない地区を対象に検診車による子宮頸がん検診を一部公費負担で実施します。

子宮頸がんは他の「がん」と同様に早期のときは自覚症状がないか、または少ないので全く気がつかないことが多いのですが、この時期に発見し、治療すれば完全に治すことができます。

早期発見、早期治療のため三十歳を過ぎたら積極的に受診しましょう。

検診の日程（表1）と実施要領は次のとおりです。

表1　日程

月日	受付時間	会場	対象地区
11・10	午前9時半～10時半	大江山農村環境改善センター	北山、丸山、西山、茗荷谷
	午後1時～2時半		松山、直り山、笹山、蔵岡、細山、西野、上・中・下大渕、江口、三百地
11・11	午前9時～10時	明田自治会事務所	早潟、保古野木、勘助郷屋、小見郷屋、藤野木、明田、前野外新田
	午後1時～2時	笠木部落事務所	槇尾、槇尾新町、嵩山、曽和、田島、金巻新田、笠木
11・12	午後1時～2時半	南浜連絡所	南浜地区全域
11・13	午前9時半～10時半	両川連絡所	虫見堂、諏訪ノ木、中村、曽根、嘉瀬、中谷内（割野校区）
	午後1時～2時半		酒屋、花ノ牧、上和田、和田潟、平賀（酒屋校区）
11・16	午後1時～2時半	濁川連絡所	濁川地区全域
11・17	午前9時半～10時半	曽野木連絡所	曽川、横川、鐘木、上沼、新川向、天野、曽野木団地、ニュータウン、警察宿舎
	午後1時～2時半		天野、新天野、天野前川原、嘉木、丸潟、鍋潟、俵柳、祖父興野、大右ェ門新田
11・18	午前9時～10時	赤塚連絡所	ニツヤ、藤蔵新田、坂田、赤塚1区～13区、山崎
	午後1時～2時	木山農協	坪山、神山、東山、木山、谷内、下野地、中権寺
11・19	午前9時～10時	中野小屋連絡所	中野小屋、大友、道河原、小瀬、田潟
11・24	午後1時～2時半	北地区保健センター	松浜地区全域
11・27	午前9時～10時	五十嵐1の町公会堂	五十嵐1の町、五十嵐2の町東
	午後1時～2時	五十嵐2の町公民館	電電内野宿舎、五十嵐旭ヶ丘、五十嵐2の町、五十嵐3の町
11・30	午後1時～2時	内野上新町公会堂	内野上新町、平和台の一部、西新町、新中浜

対象者　満三十歳以上（昭和二十七年四月一日以前に生まれた人）の市民

自己負担額　三百円（検診料千五百円のうち千二百円を市で負担）。検診当日にご持参ください。ただし、生活保護世帯の方は、福祉事務所または民生委員の証明書を提出すれば無料です。

申し込み　保健所から検診申込書が回覧されます。町内・自治会、婦人会を通じて申し込んでください。

検診結果　検診後二週間ほどで本人あて通知されます。

問い合わせ　東西保健所保健予防課（東☎41－四一一一、西☎66－五一七一）、北地区保健センター（☎59－二七二二）、石山地区保健センター（☎86－四四五〇）、西地区保健センター（☎62－三四〇五）

なお、十一月三十日まで、新潟大学附属病院と通信病院を除く市内の産婦人科病・医院でも検診を行っています（ただし、鉄道病院は国鉄職員とその家族に限ります。ガンセンター新潟病院は一日五人検診、受け付けは午前十一時まで、土曜日は検診しません。

また、市民病院で検診を希望される方は、受診者が多くいろいろとご不便をおかけしていますので、電話で混み具合等を確かめられてからおでかけになることをおすすめします＝市民病院医事課☎41－五一五一、内線四二二一＝）

市勢あれこれ
新潟空港　旅客利用実績

昭和五十五年の旅客利用実績は六四一、三四六人。

このうち国内線が九四％の六〇三、五八六人、国際線が三七、七六〇人。前年に比べて一五％の伸び▼路線別では国内線で東京がトップの一四八、四六一人。次いで大阪、名古屋、札幌の順。佐渡への旅客数は二二一七人。国際線ではハバロフスク等の定期便利用が二六、二一四人で特に前年に比べ三倍近い伸び。ちなみにチャーター臨時便利用者は一一、五四六人。

動く市政教室参加者募集

日時　10月30日午前9時までに市役所中庭に集合（雨天決行）
コース　市役所～総合教育センター～郷土資料館～園芸センター（昼食・見学）～鳥屋野総合体育館～東消防署～市役所（午後3時半到着）
定員　45人
費用　20円（郷土資料館入館料）
持参品　昼食、スリッパか運動ぐつ
申し込み　明日午前8時半から電話で市民相談室（☎28－1000、内線238～240）へ

チューリップの球根を差し上げます

日時　10月25日午後1時～2時
場所　住友銀行前、大和新潟店前
差し上げる数　先着1000人、一人5球
主催　市花いっぱい会（☎29－1789）

開公緑町マンション分譲受け付け中
―現地見学会を本日開催―

日時　10月25日午前10時～午後4時
送迎バス　市役所正面玄関前から運行
※発車時刻は午前10時から30分ごと。終発は午後3時半
問い合わせ　市開発公社（☎28－1000）へ

「成人の日のつどい」企画・実行委員募集！

市では来年1月15日、青年たちの知恵と力でつくりあげる「成人の日のつどい」を開催します。あなた自身の手で、心に残るつどいを企画、実行してみませんか。
募集人員　●今年度新成人該当者（昭和36年4月2日～37年4月1日生まれ）10人　●一般青年10人。計20人
申し込み　11月4日までに電話で市社会教育課（☎25－1000、内線32）へ

◉きびしい国保財政（二面）
◉体力づくりにぜひどうぞ　鳥屋野総合体育館写真特集（三面）
◉石油業界と消費者団体が懇談（四面）

お先に拝見 ―4―
～安宅安五郎展～

淡水街

屋根ばかりを克明に、画面一杯に描いたこの絵も台湾での作品ですが、小品ながらも力が充実して、それは大作にも匹敵するほどの迫力をもって表現されております。

「安宅のこれら一連の彩色素描や水墨素描を見て感ずることは、その製作の根底に、いつも冷徹な自然への観察眼を内臓させていたということであり、その意味では、安宅は天成の写実家であった」と新大の久保教授は安宅芸術の本質を喝破しておられます。

文　富川潤一